

■ クルムスが立川に惜敗、J P F F 全日本選手権準決勝

J P F F 全日本選手権（オーシャンボウル、日本プライベートフットボール協会主催）の準決勝が1月26日、富士通スタジアム川崎で行われ、北海道・東北代表のクルムスイーグルスは東日本支部（関東）代表の立川ファルコンズに12-16で惜敗した。クルムスは昨年の浦和ウラワーズ戦（2-6）に続き、あと一步で決勝進出を逃した。

立川は関東大学1部校や米国出身者などを含む選手45人の大型チーム。対するクルムスは、今季から加入した北海道大出身の若手5人を含む20人の少数精鋭で臨んだ。

試合は、第1Q8分にパスインターセプトからリターンTDで立川に先制を許したが、第2Qにクルムス自慢のラン攻撃が威力を發揮した。9分、自陣2ヤードからの攻撃で、RB榊琢也（北海道大出身）がOL吉田晴太（北海道大出身）が開けた穴を突いてスクリメージラインを抜けると、WR山本佑（北海道大出身）の好ブロックもあり、89ヤードのビッグランで一気に敵陣9ヤードへ。4プレー後に、RB/K七海智貴（帯広畜産大出身）が31ヤードFGを決めて、前半を3-7で折り返した。



クルムスが試合の流れを引き寄せたのが第3Q。4分、DBも務めるRB七海が立川のパスをインターセプトすると、そのまま75ヤードを駆け上がってリターンTD。2点を狙ったトライは失敗したが、9-7と鮮やかに逆転した。さらに9分には、ロングキックに自信を持つTE/DE小野寺祥太（秋田大出身）が41ヤードのFGを決め、12-7とリードを広げた。



逃げ切りを狙った第4Qだったが、攻守兼任の疲れがクルムスの守備をほころばせた。1分、パスで立川にTDを許して12-13。9分には立川に32ヤードFGで加点され、12-16とされた。再逆転を狙った残り2分からの攻撃シリーズも、痛恨のパスインターセプトでタイムアップとなった。

田中利之監督代行は「七海のインターセプトリターンTDと小野寺のFGで逆転し、いけると思ったのだが。勝負所でのターンオーバーが痛かった」と残念がり、主将のLB富田克也（室蘭工業大出身）も「去年より手ごたえがあったので、惜敗は言葉にならないほど悔しい。来年こそ」と雪辱を期した。



インターセプトTDとFGで9得点の七海は「アンダーゾーンをカバーしたら、たまたまボールが飛んできた。絶対にTDしようと懸命に走った」と振り返り、41ヤードFGの小野寺は「低い弾道だったが、風に乗ってゴールポストを越えた。大学時代はもっと長いのも決めていたので、FGの場面でKを買って出た」と言う。TDこそ無かったがラン攻撃の主軸となったRB榊は「89ヤードランは味方のブロックのおかげ。エンドゾーンに届かなかったのは練習不足」と盛んに悔しがった。（北海道学連広報委員 塚田博）